

平成29年度 大阪府立市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2 「大阪府中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

3 「大阪府英語力調査（英検IBA）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟課程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

平成29年度 大阪市立市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

● 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	92	56.7	47.7	43.8	43.0	40.5	9.4	3.9	11.5	7.5	7.1
	大阪市	—	61.6	54.5	47.9	47.7	46.9	9.3	3.8	13.0	8.9	6.6
	6月21日 大阪府	—	61.7	54.4	49.0	47.7	48.4	9.1	3.9	12.8	9.2	6.3
2 年	学校											
	大阪市	—										
1月11日	大阪府	—										
1 年	学校			—		—			—		—	
	大阪市	—		—		—			—		—	
1月11日	大阪府	—		—		—			—		—	

※ 2年生の社会は 問題を選択 2年生の理科は 問題を選択
※ 1年生については、国語・数学・英語のみ実施

● 大阪市中学校3年生統一テスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校						
10月5日	大阪市	—					

● 大阪市英語力調査（英検IBA）

学年 実施月日		生徒数 (人)	語い 熟語 文法 (%)	読解 (%)	リスニング (%)	英検3級 LV以上 (%)	英検4級 LV以上 (%)	英検5級 LV以上 (%)
3 年	学校						—	—
	大阪市	—					—	—
2 年	学校					—		—
	大阪市	—				—		—
1 年	学校					—	—	
	大阪市	—				—	—	

結果の概要

平成29年度 中学生チャレンジテスト(3年)について

国語: 漢字や選択肢から選ぶような問題には答えられているが、記述式の問題になると無回答が目立つ。
社会: 基本的な内容の理解が不十分である。地理的分野ではグラフなどの資料の読み取りができていない。
数学: 基礎的な計算問題などはよく解けていたが、応用問題の正答率が低い。
理科: 大阪府、大阪市の平均点と比較すると、-4.7点と大きく下回る結果となった。
英語: 領域・観点・問題別の分布をみると全てにおいて下回っている。また、無解答率も高い。

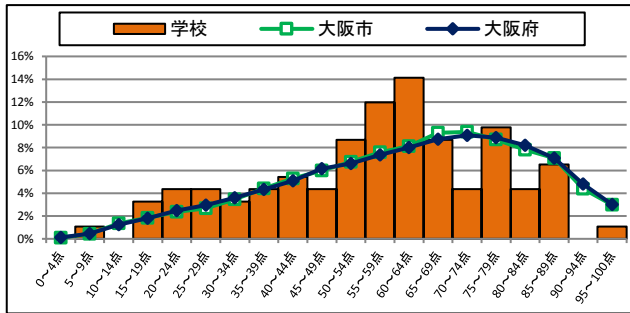
成果と今後取り組むべき課題

平成29年度 中学生チャレンジテスト(3年)について

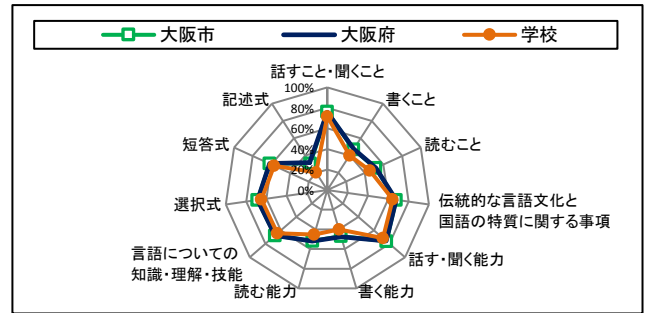
国語: 毎日の漢字学習による成果が出ていた。今後は、更に自分の考えを書き、発表していく授業を行う。
社会: 基礎・基本を復習し、資料解読の問題に取り組む。
数学: 基礎学力を定着させる取り組みは継続しながら、応用問題や文章題への取り組みも増やしていく。
理科: まず、基本的内容の理解を深めさせる。その上で、応用問題など発展的内容につなげていく。
英語: 話の内容や書き手の意見に対し感想を述べたり、賛否や理由を示したりすることができるようにする。

【国語】

【得点分布】

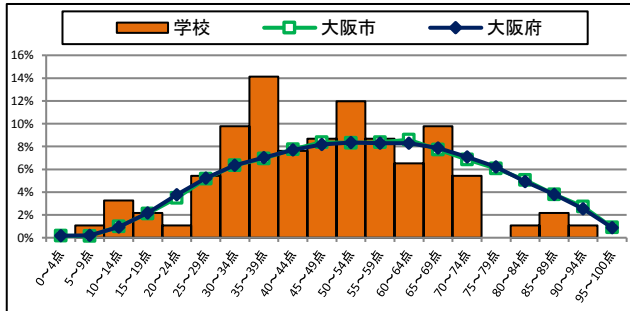


【領域・観点・問題別の分布】

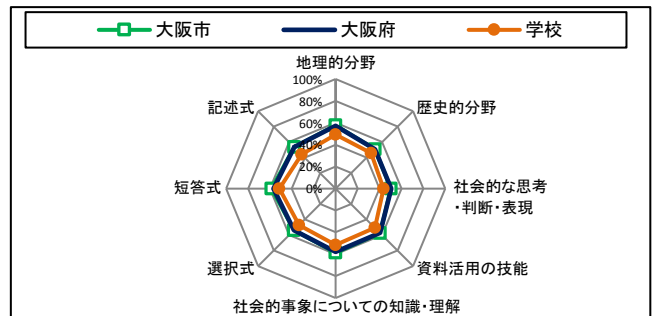


【社会】

【得点分布】

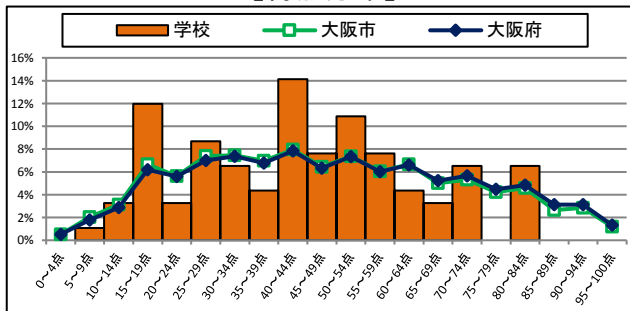


【領域・観点・問題別の分布】

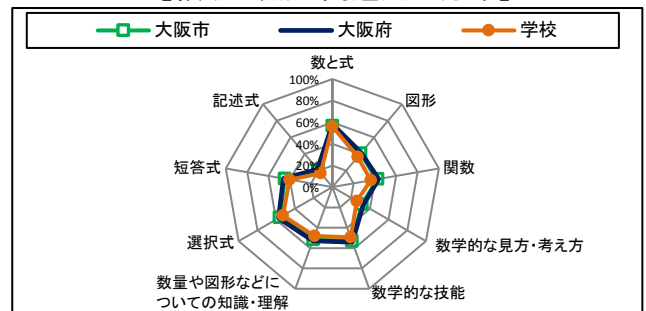


【数学】

【得点分布】

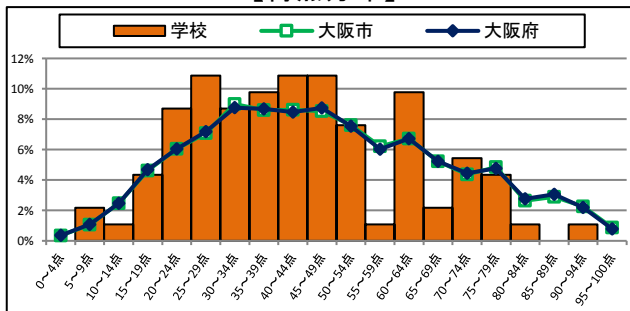


【領域・観点・問題別の分布】



【理科】

【得点分布】

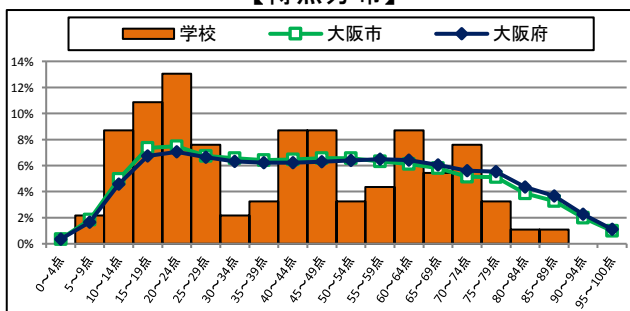


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

